市町村名	北大東村

平成２９年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7	北大東村コミュニティ施設周辺整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(11)－エ 過疎・辺地地域の振興
担当部課名	経済課	事業実施（予定）年度：平成27～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)

事業内容	北大東村内で毎年行われる祭り行事では県内外から多くの関係者や観光客が訪れており、歴史・文化の継承及び観光誘客を図るため、コミュニティ施設周辺整備を行う。
効果発現年度	□当年度　　■後年度（R1年度）
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

	H27年度	H27年度（繰越）	H28年度	H29年度	H29年度（繰越）
予算の状況 (a) 当初予算額	85,000	―	30,000	85,000	―
(b) 予算現額	85,000	―	45,300	116,000	―
(c) 増減額 (b-a)	0	―	15,300	31,000	―
(d) 繰越額	―	55,011	―	―	35,302
A. 計 (b+d)	85,000	55,011	45,300	116,000	35,302
B. 執行済額	29,989	54,705	45,079	80,698	32,508
うち交付金充当額	23,991	43,763	36,063	64,558	26,006
次年度繰越額	55,011	―	―	35,302	―
執行率（%）（B/A）	35.3%	99.4%	99.5%	69.6%	92.1%

予算の状況の説明：施工スペースの確保が困難との理由から施工法等の再検討を行う必要があったため、調整及び計画の変更に不測の日数を要したため、工事及び施工監理に係る35,302千円をH30年度に繰越した。

活動目標（指標）及び達成状況

H29活動目標（指標）		達成状況 H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
・大東宮備品格納庫（38.88㎡）・櫓の整備 ・大東宮周辺整備工事の実施 ・秋葉宮周辺整備設計の実施	目標	（整備及び実施）	（　）	（　）	（　）
	実績	整備及び実施			
	目標	（　）	（　）	（　）	（　）
	実績				

達成状況説明：大東宮周辺整備工事の実施及び秋葉宮周辺整備設計の実施については平成29年度末に完了し、大東宮備品格納庫・櫓の整備については平成30年8月末で整備が完了し翌月から供用が開始されている。

成果目標（指標）及び進捗状況

H29成果目標（指標）		基準値（　年度）	H29年度	H30年度	R1年度	目標値（R1年度）
・大東宮備品格納庫（38.88㎡）・櫓の整備完了 ・大東宮周辺整備工事の完了 ・秋葉宮周辺整備設計の完了	目標	（　）	（完了）	（　）	（　）	（　）
	実績		完了			
【R1成果指標】 施設を利用した祭りの来場者数　368人以上	目標					（368人以上）

進捗状況説明：下記に記載の通り事業を実施し、村内の開拓者たちが持ち込んだ文化などを観光施設として整備したことによって、村に訪れる観光客などが安全・快適に観光してもらう受入体制を強化することができた。
・大東宮備品格納庫（38.88㎡）・櫓の整備を行い利便性の向上、雨天時でも開催が可能となった。
・大東宮周辺整備工事を行い観光客や村民が本施設にアクセスするための参道が今までは土だったため水はけが悪く石積などもずれていたため危険があったが、アスファルトと土を混ぜて整備したことにより水はけがよくなり石積などもずれなくなったためより安全に参道を渡ることが可能となった。
・秋葉宮の格納倉庫、観覧席、公共トイレの設計を行い次年度以降に整備を行う。

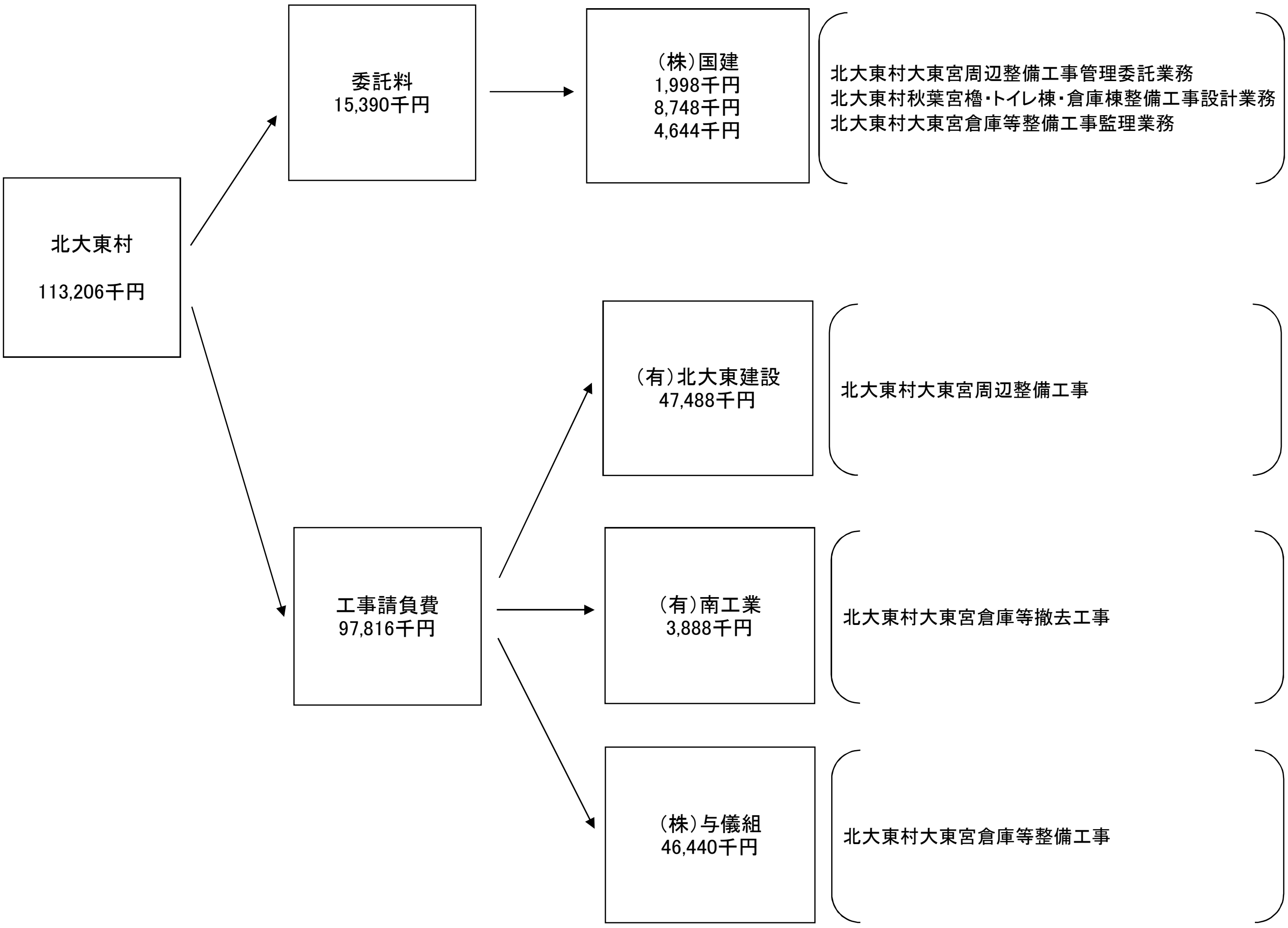
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・備品格納倉庫・櫓の整備が整ったことから格納する備品等が必要である。 ・大東宮を使用するお祭りである大東宮祭は、島で一番大きなお祭りで御神輿や奉納相撲、打上花火などといった催しがあるが御神輿の担ぎ手や奉納相撲の参加者など年々少なくなってきているためお祭り参加型の誘客事業に力を入れる必要がある。 ・秋葉宮周辺整備事業（実施設計）の完了に伴い、次年度以降に整備する箇所の優先順位を決める必要がある。	・備品格納倉庫・櫓の整備が整ったことから有識者等の意見を参考にして格納する備品を検討し、準備などの利便性の向上に繋げる。 ・大東宮は、島で一番大きなお祭りであるため里帰りしつつ参加する島出身者が多いため、飛行機の予約や宿の予約が取りにくい状況であるため改善策を検討する。 ・秋葉宮の整備にあたっては、有識者等からの意見を参考にして、整備個所の優先順位を検討する。

今後の取り組み方針

・備品格納倉庫・櫓の整備については、格納する備品を購入し利便性の向上に取り組む。
・大東宮については、有識者などの意見を踏まえて観光メニューを作成し、観光誘客に取り組むために、宿泊施設の拡充や航空路線の更なる拡充に取り組んでいく。
・秋葉宮の整備は、有識者等の意見を踏まえて決定した優先順位に基づいて、速やかに整備着手する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
113,206	113,206	90,564	22,642	



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については不用額は入札残により生じた2,794千円であり、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北大東村

平成２９年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	8	北大東小中学校ランチルーム整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(11)－イ 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度 平成29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9

事業内容

北大東小中学校は児童生徒数約60名の小規模校であり、昭和58年度完全給食開始以来、全校生徒・教職員が調理場併設のランチルームで給食を実施している。地域特有の教育環境構築に向け、児童生徒の豊かな心を育み、教育の資質向上へ繋げる為、運営システムの改善に伴い、改築整備を行う。

効果発現年度　□当年度　■後年度(R1年度)

実施方法　■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	R1年度	R2年度
予算の状況	(a)当初予算額	78,000	－			
	(b)予算現額	89,000	－			
	(c)増減額(b-a)	11,000	－	0	0	0
	(d)繰越額	－	37,052			
	A. 計(b+d)	89,000	37,052	0	0	0
B. 執行済額		51,948	37,044			
うち交付金充当額		41,558	29,635			
次年度繰越額		37,052	－			
執行率（％）(B/A)		58.4%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

予算の状況の説明

当該工事は、既設の給食調理場を解体後の場所に建設するものであるが、解体施設一部にアスベストが含まれており、解体粉塵防止工事・専用運搬車導入等により、不測の日数を要したため、工事及び施工監理に係る37,052千円をH30年度に繰越した。

活動目標(指標)及び達成状況

H29活動目標(指標)		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
・ランチルームの整備：設計の実施 ・ランチルームの整備：監理・工事の実施	目　標	(　実施　)	(　)	(　)	(　)
	実　績	実施			
	目　標	(　)	(　)	(　)	(　)
	実　績				

達成状況説明

ランチルームの設計の実施については平成29年8月末に完了し、ランチルームの監理・工事については平成30年6月に工事が完了し供用開始されている。

成果目標(指標)及び進捗状況

H29成果目標(指標)		基準値(　年度)	H29年度	H30年度	H31年度	目標値(R1年度)
・ランチルームの設計完了 ・ランチルーム監理・工事完了	目　標	(　)	(　完了　)	(　)	(　)	(　)
	実　績		完了			
【参考指標】 安心安全な給食運営・児童生徒・教職員のコミュニケーション向上と食育向上が図られたか(80%以上)を含め、アンケートにより本事業のあり方検証する。	目　標					(　80%以上　)

進捗状況説明

下記に記載した通り事業を実施し、小中学校のランチルームを整備したことによって、安心安全な給食運営を行うことができた。
・給食ランチルームの設計、北大東小中学校の給食調理場解体を行った。
・給食ランチルームの整備を行ったことで、児童生徒・教職員が安心安全に一堂に会して給食を食べることができるようになり、コミュニケーション向上と食育向上が期待できる。

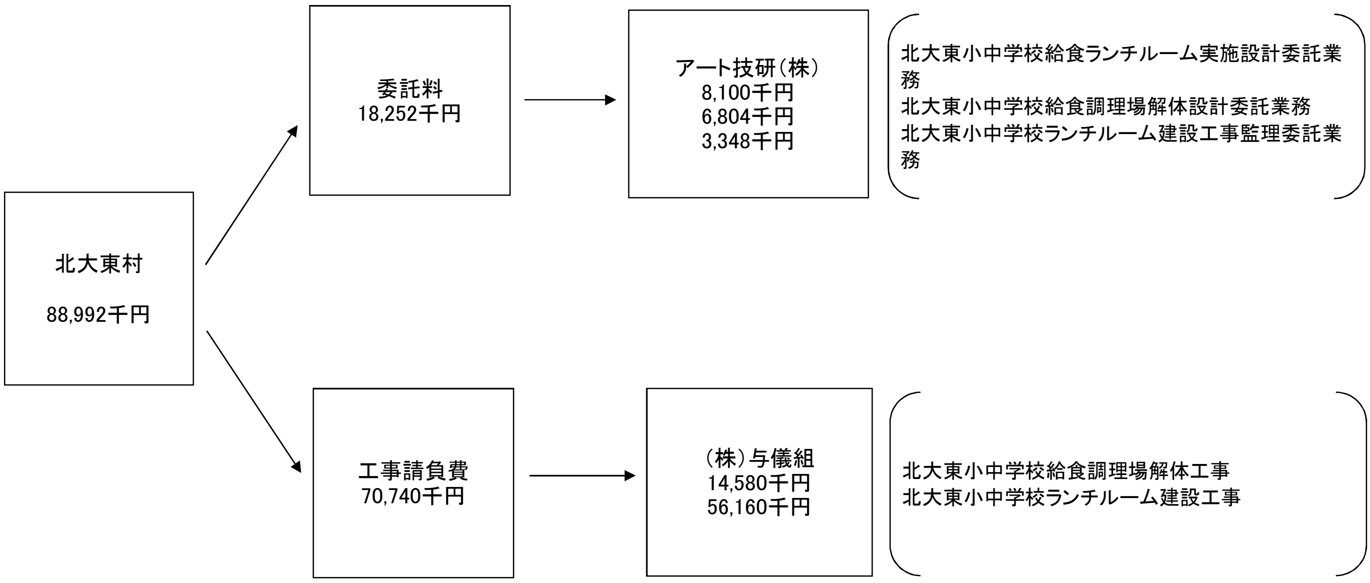
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・ランチルーム整備の完了により、安心安全な給食運営を行う環境が整ったことから、児童生徒・教職員のコミュニケーション向上と食育向上が図られているか調査する必要がある。	・児童生徒・教職員が一堂に会し給食を食べることによって、コミュニケーションや食育の向上が期待でき、地域との交流を実施することで更なる食育の向上等につなげられないかをアンケートにより検証する。

今後の取り組み方針

・アンケート結果をもとに、給食に使用する地元食材を提供してくれた方や保護者などを招いて給食を食べる会などを行い、更なる食育の向上に繋げる。
・施設管理や衛生管理を適切に行い、安心安全な給食の提供に努める。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
88,992	88,992	71,193	17,799	



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託及び工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において検査確認しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	